

意見交換項目④他の公募展との差別化・ 草津市美術展覧会の独自性について

資料⑥

これまでの流れ

- ▼草津市展のターゲット・方向性について（H30文化振興審議会意見書より）
 - 市美術展覧会は、地方公共団体が実施する市民に最も身近な展覧会であることから、**市民に広く機会を設けることに重点を置くこと。**
 - 出品者および来場者の減少、高齢化という課題があり、長期的に**新しい要素の検討を行うこと。**
 - 現代のニーズに合わせて部門を新設するなど、**他市との差別化が図れるよう特色を設けること。**
 - 個人の作品展示だけでなく、**アートと社会の関わりを提示する機能を検討すること。**
- 若者、高齢者問わず幅広い世代が出品しやすい展覧会にする
- 極力落選を抑え、誰もが出品しやすく親しみやすい展覧会にする

- ▼2019（令和元）年度に新しく取り組んだ事項について
 - 市展賞作品の写真を出陳目録へ掲載した
 - SNSによる拡散を期待し、会場を写真撮影可能とした

他市との差別化を図るための草津市展の新しい試みや提案

- 毎年度ごとに独自のメインテーマを設定
（例：琵琶湖、草津 など）
- 副賞の充実化
（例：「アンダー〇〇奨励賞」など一定の年齢までの賞の創設、「草津イオンモール等別会場での個展開催権」の授与 など）
- 市民参加の手法の検討
（例：来場者投票による賞の導入 など）
- アートと社会の関わりを提示する機能
（例：ホスピタルアート（病院や福祉施設などでの作品展示） など）
- 企画展の同時開催
（例：滋賀県工芸美術協会展、金沢・世界工芸トリエンナーレ など）